

## 平成29年度 発掘調査報告

掲載日：2017年11月10日更新

### 平成29年度 発掘調査報告

平成29年度に行われている発掘調査について随時報告していきます。

#### 北野田A遺跡発掘調査

平成29年8月17日より発掘調査を始めた北野田A遺跡（豊田市蕪木町）は10月27日に発掘調査を終えました。

北野田A遺跡は前回調査した北野田C遺跡から北へ150mほど離れた場所にあり、北野田C遺跡と同様に谷に面した平地に立地する遺跡です。かつて耕作地として利用されていましたが、近年放棄され林地となっていました。調査区の西側には深さ1mほどの自然流路である谷（120NR）があり、中世の山茶碗や小皿が出土しました。また調査区北東部では100基以上のピット群が集中して見つかりました。ピットの埋まり方を検討してみると柱は抜き取られているものが多いこと、重なり合うピットから複数回の建て替えが想定されることが分かりました。なかでも特徴的な遺構として常滑窯焼の壺が完全な状態でおさめられたピットが1基検出されました。壺の特徴から中世に属するとみられます。

今後は昨年調査を行った北野田B遺跡北側部分の発掘を引き続き行います。調査を進めていく中で中世の北野田地区での生産活動、またそれ以前の人々の営みの様子が明らかになると考えられます。



上左：北野田A遺跡発掘調査の様子

上右：常滑焼の壺 出土状態

下左：ピット群

下右：北野田A遺跡全景

#### 北野田C遺跡発掘調査

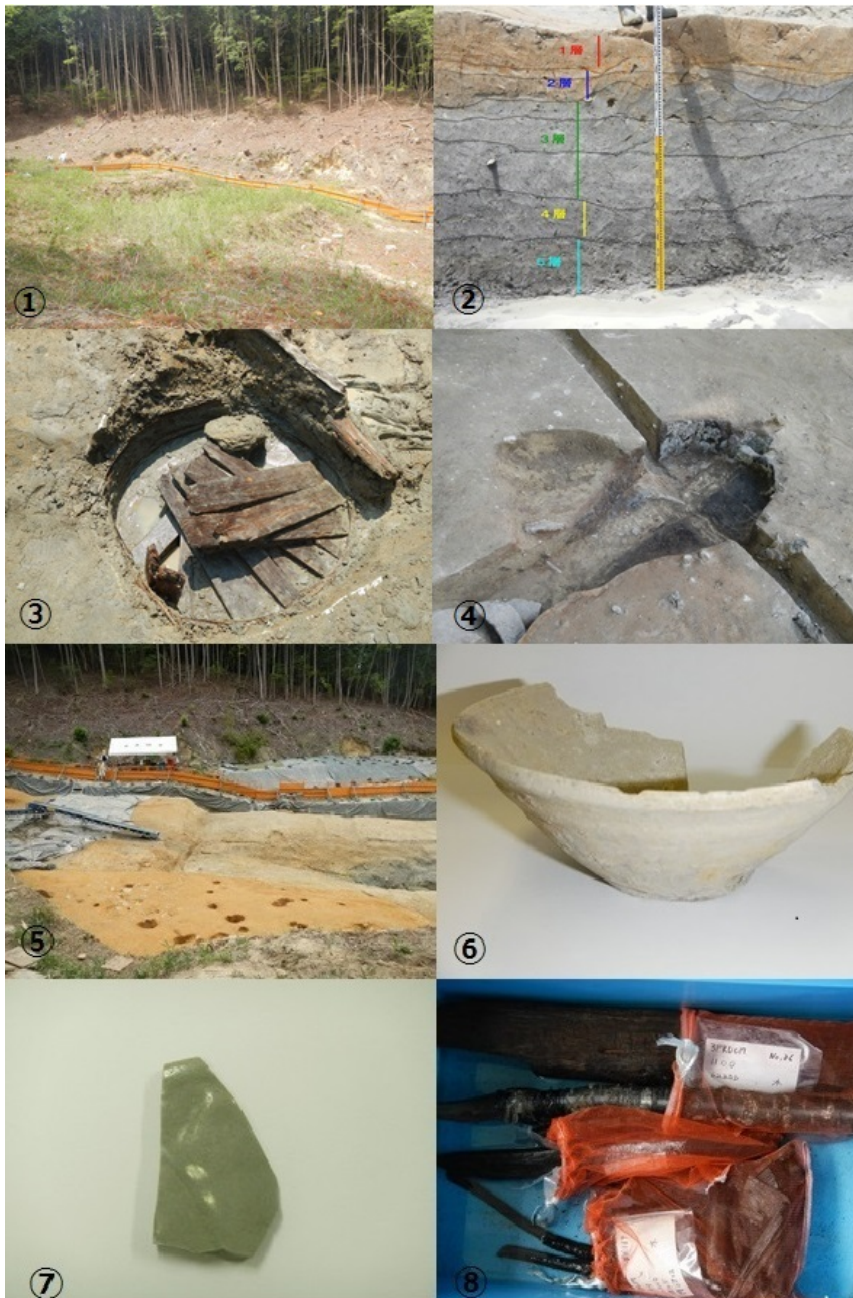
平成29年5月10日から発掘を始めた北野田C遺跡（愛知県豊田市蕪木町北野田）は8月10日に発掘調査を終えました。今回の発掘調査では、昨年調査を行った北野田B遺跡との関連で、中世の遺構・遺物の検出を念頭に行いました。

調査区はもと4段の階段状の耕作地でした。重機で表土をはぎ取った後、土層を見ながら人力掘削で慎重に掘り進めました。掘削を進めると近世の染付陶器や施釉陶器類が出土しましたが、次第に山茶碗などの陶器類が多く出土するようになりました。

最も低い北側の1段目から2段目にかけては谷（003NR）が展開していました。谷（003NR）は当初の予想以上に深く、谷底まで掘削を行うと谷底までは地表面から2m近くになりました。また、谷（003NR）の最下層からは木製品や分割材と思われる木片が大量に出土しました。

調査区東の平場には掘立柱建物の跡と見られるピット（穴）がたくさん検出されました。調査区の南、最上段では、現代の炭窯跡が検出されました。

出土遺物や検出された遺構などから、北野田C遺跡では中世から現代に至るまで面々と人々の営みが続いていたことが分かりました。この後も引き続き、遺物の整理、検証を行います。



- 1 発掘調査前の北野田C遺跡。4段の耕作地でした。
- 2 谷（003N R）の堆積：すでに表土を40cmほど掘削しています。現場では5層に分けて調査しました。
  - 1層：耕作土。近世のものと考えられる施釉陶器片などが出土しました。
  - 2層：1層同様耕作土と考えられます。遺物は中世の山茶碗と近世の陶片が混ざって出土しました。
  - 3層：中世の山茶碗のかげらに混じり木製品・分割材が出土しました。
  - 4層：主に中世の木製品・分割材が出土しました。
  - 5層：主に中世の木製品・分割材が出土しました。植物質の腐食により土壌は褐色化しています。
- 3 耕作地の脇に埋められた現代の桶。肥溜（こえだめ）か水溜として利用されたと考えられます。
- 4 炭焼窯の跡。
- 5 1段上がった平場で見つかったピット（穴）群。
- 6 山茶碗。出土した多くは破片でしたが、北野田C遺跡からは最も多く出土しました。

- 7 中国産の青磁片。
- 8 木材・加工品。杉材に混じり桜材も出土しました。

### 貝殻山貝塚で史跡整備に伴う地中レーダー探査が行われました。

6月14日、清須市の貝殻山貝塚資料館の敷地内で地中レーダー探査が行われました。この探査は国指定史跡である貝殻山貝塚の史跡整備に伴うためのものです。探査の方法は、レーダーを積み込んだ器機を敷地内等に設定した側線に沿って移動させ、レーダーを用いて地中の反応を見ていきます。その反応で遺構を探るのです。

調査結果は今年度、行われる史跡整備に伴う確認調査に反映させていきます。

#### 貝殻山貝塚（かいがらやまかいづか）資料館

清須市に所在。東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡である朝日遺跡内にあり、国指定史跡貝殻山貝塚の敷地内に所在する。昭和50年に開館し、朝日遺跡出土遺物の中で国指定重要文化財に指定されたものを中心に展示される。木曜から日曜までの午前9時から午後4時に開館。祝日は休館。電話052-409-1467

#### 貝殻山貝塚（かいがらやまかいづか）

清須市に所在。東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡である朝日遺跡内にあり、朝日遺跡の中で弥生時代前期に集落が営まれ、遺跡の名称の由来である貝塚が形成された。古くからその所在が知られ戦前から調査が行われた。昭和46年には国の史跡に指定され、昭和47年には愛知県教育委員会による報告書が刊行された。



調査前の打ち合わせ



探査実施中



探査の成果





探査後の打ち合わせ

---

## 1月27日更新 北野田B遺跡の発掘調査の様子を報告します。

---

調査研究課の尾崎です。

北野田B遺跡（豊田市蕪木（かぶらぎ）町北野田）の発掘調査も終盤を迎えております。今回の報告では前回の報告以降、新たに発掘された遺構、遺物について紹介していきたいと思っております。

写真(1)は、**中世の竪穴状建物**です。棚田状に広がる調査区2段目の補足調査で確認されました。写真では分かりづらいかもしれませんが、中央の**隅丸方形**（すみまるほうけいじょう）に窪（くぼ）む部分が竪穴状建物です。この遺構は湿地を整地して造られています。遺物としては中世の山茶碗、小皿、箸（はし）、板状の木製品、周辺で砥石（といし）が出土しています。その様相から**木製品を加工する作業小屋**であったのではないかと考えています。

写真(2)は、調査区6段目で確認された**石組みの堰状(せきじょう)遺構**です。写真の右側と左側の2列を確認しました。右側の堰(せき)は石組みだけですが、左側の堰は石組みに杭が伴っており、杭で流れを堰(せ)き止めて、石で支えている状況がよく分かります。

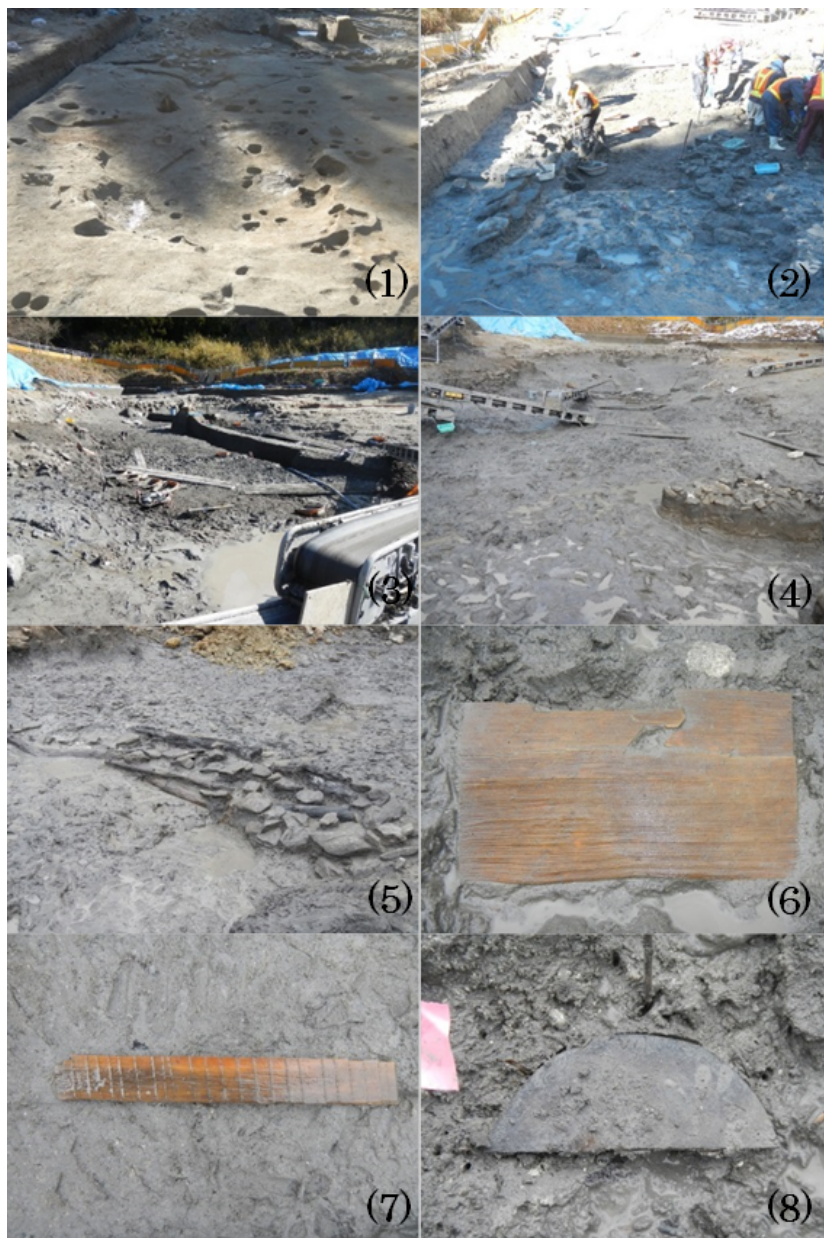
写真(3)・(4)は調査区5、6段目のほぼ最終段階の様子です。両写真共に奥の方に石垣状の石組みが確認できると思います。この遺構は、竪穴状建物が掘り込まれている整地土の流出を防ぐものと考えられます。

写真(5)は調査区5段目で確認された**中世の堰状遺構**です。丸太を何本も並べてその上に人頭大(じんとうだい)の大きさの石を敷き詰めています。石の近くから山茶碗が出土しました。丸太は残りが非常に良いためサンプルを持ち帰り、**年代測定**や木の種類を特定する**樹種同定**分析にかけます。

写真(6)・(7)は、調査区5段目で検出された**板状の木製品**です。これらの板材は、鉄製の工具によって切込みが刻まれており、次の段階で加工されやすくしています。**曲物(まげもの)**の部材にはこのような特徴が見られることから、これらも曲物の部材であると考えられます。

写真(8)は、**曲物の底板**です。同じく曲物の部材と考えられる板状の木製品は大量に出土していますが、その板は現在まで数点しか出土していません。

この北野田B遺跡の調査では、**中世の森林開発**を考える特徴的な遺構や遺物が多く確認できました。今後整理作業を進める中で、遺跡の性格を考えていきたいと思っております。



写真(1) : 中世の竪穴状建物

写真(2) : 堰状(せきじょう)遺構

写真(3)・(4) : 調査区5、6段目の様子

写真(5) : 丸太と石を組み合わせた堰状遺構

写真(6)・(7) : 切込みが刻まれている板状の木製品

写真(8) : 曲物の底板

[一つ前のページに戻る](#)

[このページのトップへ](#)

[このホームページについて](#)

[個人情報の取扱い](#)

[免責事項・リンク](#)

[RSS配信](#)

f シェアする

🐦 ツイート

LINEで送る

ソーシャルメディア一覧へ

## 愛知県

県庁住所：〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号（県庁舎へのアクセスはこちら）

代表電話：052-961-2111（県機関の連絡先はこちら）

開庁時間：午前8時45分～午後5時30分（土日祝日・12月29日～1月3日を除く）※開庁時間の異なる組織、施設があります。

法人番号：1000020230006

